

大学でのインフォーマルなオンライン交流会 の試み: 「夜ふかしRemo会」の開催

武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科 助教
岡田龍太郎

ryotaro.okada@ds.musashino-u.ac.jp

問題意識

- 武蔵野大学はコロナ禍の中、学事日程通りの運営ができた
- オンライン授業は意外に好評だった
- 大学生活の価値は授業だけではないのでは？
 - “「大学生活」という言葉は、キャンパスという場で学友や教職員と生の時空を共有することであり、こうした人間関係は学生の間人形成に大きく寄与します。” [1]
- インフォーマルなコミュニケーションの欠如
→ 学生に遊び場を提供してあげたい

[1] 「令和3（2021）年度の授業方針（対面授業の実施）について」
<https://www.musashino-u.ac.jp/news/20210125-07.html>

メインテーマ：オンライン交流会の開催

- 全学の学生が参加できるオンライン交流会を定期的に開催することにした
 - 「夜ふかしRemo会」と名付けた
 - 学生のみならず教職員も参加可能
 - 毎週土曜の夜に開催している
- Remoというサービスを利用
 - 授業用に用意したものの流用
- 学生同士、または学生と教職員とのインフォーマルなコミュニケーションを実現した

Remo Conferenceの紹介



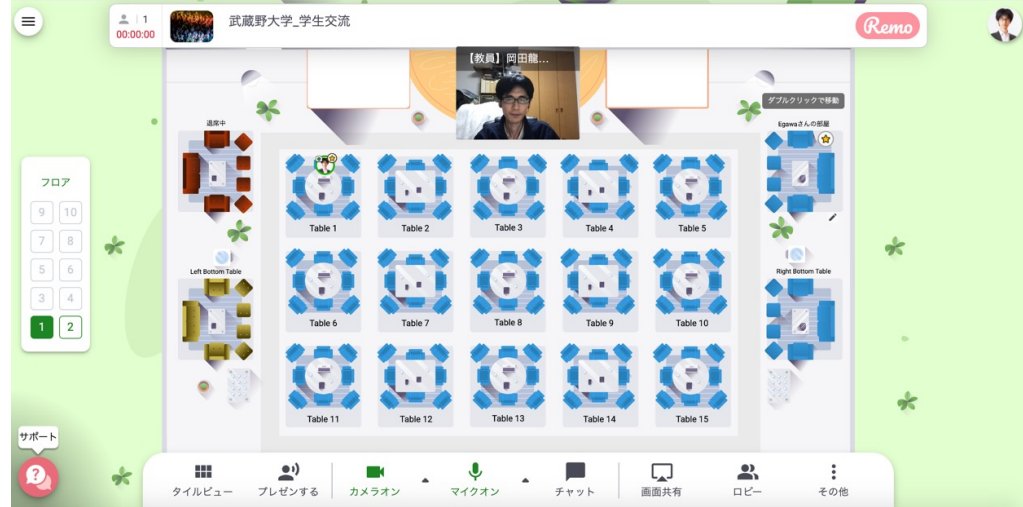
- Remo:オンラインの会議(カンファレンス)を実現するサービス
 - 学会等でもポスター発表などに利用されている
- 武蔵野大学では、全学向けのプログラミングの授業に利用するため契約した(有料)
- データサイエンス学科では、企業を呼んで行う年度末の成果報告会にも用いた(200人規模)

Remoの画面



The screenshot displays the Remo meeting interface. At the top, the meeting title is "武蔵野大学_学生交流" (Waseda University Student Exchange) with a duration of 00:00:00. A video feed of a participant, identified as "【教員】岡田龍..." (Faculty: Ryū Okada), is visible. The main area features a 3x5 grid of 15 tables, labeled "Table 1" through "Table 15". On the left, there is a "フロア" (Floor) control panel with a numeric keypad (1-10) and a "サポート" (Support) button. On the right, there are "退席中" (Absent) and "Egawaさんの部屋" (Egawa's Room) options. The bottom toolbar includes icons for "タイルビュー" (Tile View), "プレゼンする" (Present), "カメラオン" (Camera On), "マイクオン" (Microphone On), "チャット" (Chat), "画面共有" (Screen Share), "ロビー" (Lobby), and "その他" (More).

Remoの特徴



- テーブルを含む会場全体が可視化されており、**好きなテーブルを選んで移動できる**
- どのテーブルに誰が居るか視覚的に理解しやすい
- テーブル内の全員が**同時に画面共有**できる
- テキストチャットも搭載されており、全体宛、テーブル宛、個人宛に送れる
- 全体にプレゼンする機能は基本的にホストしか使えない

「夜ふかしRemo会」の詳細

「夜ふかしRemo会」とは？

- Remoを使った大学関係者向けのオンライン交流会
- 開催日：毎週土曜日夜(21:00～翌日2:00)
 - 2020/11/28～
- 主催：私(岡田)
 - 一教員の個人活動
- やること：雑談

開催時の様子



- 学生たちが勝手に分かれて雑談している

開催日

- 毎週土曜日開催
- これまでに19回開催

2020年

11/28, 12/5, 12/12, 12/19, 12/26, 12/31(木)

2021年

1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6, 2/13, 2/20, 2/27,
3/6, 3/13, 3/20, 3/27, 4/3

参加者の実態

- 参加者は、現在は25名程度
 - 初期は10名程度だった
 - 多くの学科、全学年からまんべんなく参加
 - 新入生が特に増えていっている
- 教員は私以外に1名が常連として参加
 - 突発的な参加の累計としては4名ほど
 - 職員の参加は今の所なし
- 顔出しはまちまち

twitterコミュニティとの相乗効果



- 参加者の多くはTwitterからの流入
- イベントの告知も基本的にはTwitterから
 - 授業経由も少しある
- 夜ふかしRemo会の参加者がTwitterで実況したり感想を書いたりして口コミが広まる
- 口コミを見て参加者が増える

効果

- 学生の交友範囲の拡大
- 新入生の不安の軽減
- 横の繋がりによる **学生の相互支援** の促進
 - 常連メンバー(新入生)が中心となって、新学期から授業で使う各種サービスのログイン等の手伝いをしてくれた
 - Remoのルームを用意して質問に対応した日もあった

スケールさせていくには？

- 一教員の活動では不十分
 - 案1: いろんな教員がコミュニティを立ち上げる
 - 教員の個性に依存するので難しい
 - 案2: 学生が自力でコミュニティを立ち上げる
 - サークル活動支援が本道と思われる
- 定期的に行うのが重要
 - 継続していくことでの認知度は次第に上がっていった
 - あまり凝った企画は出来ないのではない
- Remo以外で行う場合
 - Discordがオススメと思われる

まとめ

- インフォーマルなコミュニケーションが失われていた大学で、学生および大学関係者が参加できるオンライン交流会「夜ふかしRemo会」を開催した
 - 毎週土曜、今日までに19回
- 学生の横のつながりを増加させる効果があった

詳しく知りたい方、参照したい方向け

- 紀要があります

- 大学でのインフォーマルなオンライン交流会の試み: 「夜ふかしRemo会」の開催
 - <http://id.nii.ac.jp/1419/00001414/>

- その他、武蔵野大学のオンライン対応について (MUSIC = Musashino University Smart Intelligence Center)

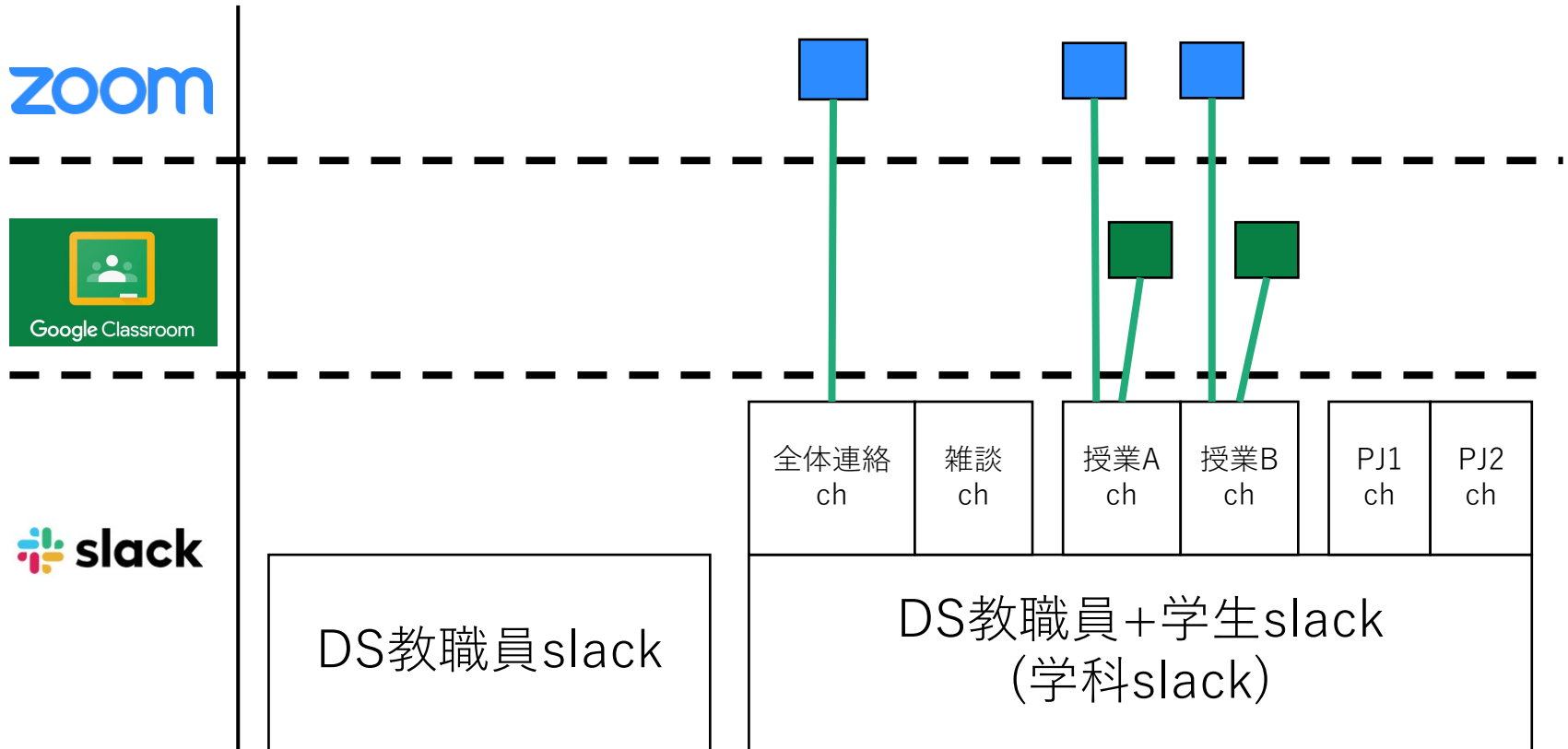
- https://mu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=238&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21

予備

オンライン交流に使えるツール

	サービス	武蔵野大生の利用率	利用時に想定されている交流範囲 (プライベート or パブリック)	アプリ or ブラウザ
チームコミュニケーションツール(同期+非同期)	Slack	△(DS学科のみ◎)	両方	両方
	Teams	△	プライベート	両方
	Discord	△	両方	両方
メッセージングアプリ(同期+非同期)	LINE	◎	プライベート	アプリ
	Skype	×	プライベート	両方
同期型のオンラインコミュニケーションツール	Zoom	◎	プライベート	両方
	Remo	△	パブリック	ブラウザ
	mocri	△	プライベート	アプリ
	Clubhouse	△	両方	アプリ
SNS(非同期型のオンラインコミュニケーションツール)	Twitter	○	パブリック	両方
	Instagram	○	パブリック	両方
	Facebook	×	両方	両方
	Yammer!	△	プライベート	両方

武蔵野大学データサイエンス学部の オンライン授業の対応



オンラインで達成できたこと、 できなかったこと

授業(知識の伝達)	○
授業内外の先生のぶっちゃけ話	×
同学科内のコミュニケーション	△
学科をまたいだコミュニケーション (サークル活動等を含む)	×

- インフォーマルなコミュニケーションの欠如
→ 学生に遊び場を提供してあげたい

Remoの授業での利用例



- 講師が複数いる授業で、困っている学生に**並列に指導**できる
 - 個別指導をするテーブルに講師が待機しているところに質問に来る
 - 講師がテーブルを回って困っている学生を連れ出す

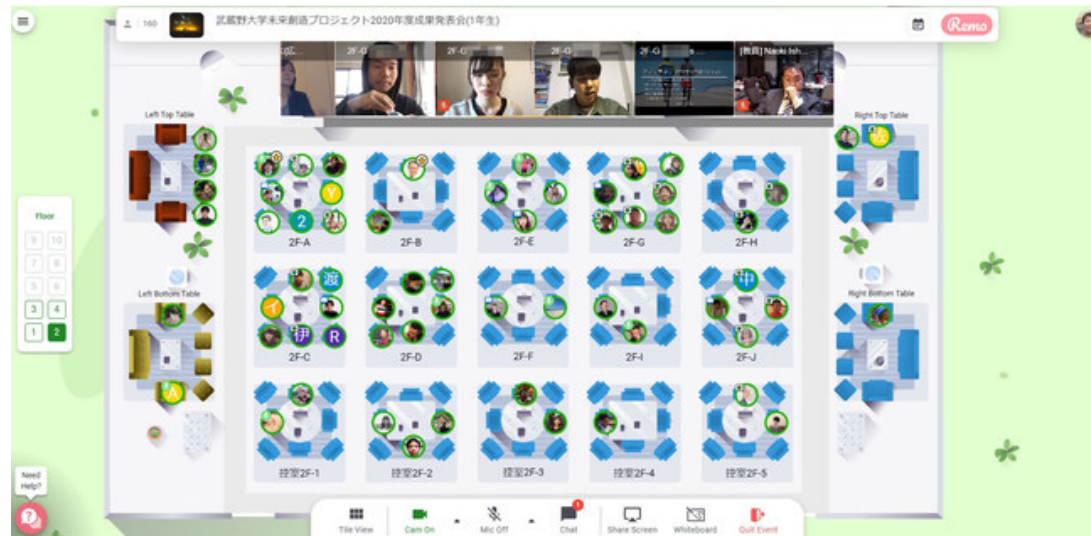
イベントでの利用例 (ポスター発表風の利用)

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

【武蔵野大学】オンラインイベントツール“Remo (リモ)”を活用し、リアルな成果発表会をオンライン上で実現

～データサイエンス学部1・2年生137名が1年間の研究成果を発表！～



【本件のポイント】

- データサイエンス学部1・2年生が実践型ゼミ「未来創造プロジェクト」の中で取り組む研究成果を発表
- 今年度はリモート・イベントツールRemo (リモ) を活用し、ポスターセッションという形で開催
- 1年生の発表には16企業・4大学から60名が参加し、研究成果を評価